

## 【八坂神社（鹿屋市向江町）】



安養寺の隣りには鹿屋幼稚園があり、幼稚園の正門の奥の方に「八坂神社」が鎮座する。

ここは鹿屋の六月灯の皮切りの神社で、鹿児島弁で言う「おぎおん（祇園）さあ」だ。

八坂神社は「午頭（ゴツ）天王」こと「スサノヲノミコト」を祭っている。

「午頭天王」は「朝鮮半島由来の神で、さらに「祇園」は「シオン」であるから、八坂神社こと「祇園社」は朝鮮半島経由のユダヤ系の神を祭っている——などという「トンでも説」を唱える研究者のいる「おぎおんさあ」でもある。

だがさっき指摘したように、公園台地上にスサノヲの子を祭る「熊野神社」つまり「黒潮つながりの紀伊と出雲」の元締めのような存在があったことを考慮すると、この八坂神社は同じく紀伊にも出雲にも縁を持つスサノヲを祭っているわけだから、その首尾は一貫している。

これらを祭っていたのが南九州の熊曾こと隼人の前身である航海民「鴨族」であったろう。コトシロヌシは琉球国一ノ宮といわれる「波の上宮」の祭神「事解男（ことさかお）」と同じで、スサノヲの子孫でもっとも航海民性が強い。

その西を「曾原」とし、その東を「曾田」として鹿屋中央公園舌状台地を聖地としてあがめていた「曾人（そびと）」は、鴨族としては朝鮮半島まで往来するほどの航海民でその首長「カモタケツヌミ」（京都・下鴨神社の祭神）は船団を率いて、いわゆる「神武東征」の以前に大和入りしている（『山城国風土記』）。

（私見では次の「神武東征」の主は、魏志倭人伝に載る「投馬（そつま）国」の王「ミミ」であり、記紀の記す「タギシミミ」がまさにその本人であると考えている。詳しくは自著『邪馬台国真論』に記してある）（出典：不明）

### ※ スサノヲノミコト【素戔嗚尊／須佐之男命】

日本神話の神。伊弉諾尊（いざなぎのみこと）・伊弉冉尊（いざなみのみこと）の子。天照大神（あまてらすおおみかみ）の弟。多くの乱暴を行ったため、天照大神が怒って天の岩屋にこもり、高天原から追放された。出雲に降り、八岐大蛇（やまたのおろち）を退治し、奇稲田姫（くしなだひめ）を救い、大蛇の尾から得た天叢雲劍（あまのむらくものつるぎ）を天照大神に献じた。